

MKSAP 感染症勉強会

【6月】症例で学ぶ「初動が鍵になる感染症診療」

救急外来・総合診療・感染症外来で出会う4つの臨床シナリオ。

迷いやすい初期対応、見落とししやすいサイン、そして一歩先の意思決定を、わかりやすく掘り下げます。

日時：毎週金曜日 17:30～18:30

場所：感染症医療人育成センター

(医歯薬学総合教育研究棟(歯学部)6階オープンラボ7)

対象：医学生・研修医・感染症診療に関心のある医療者

形式：症例提示+ディスカッション ※Zoomでの対応も可

Clinical pearls を
1 症例ずつ持ち帰れる
勉強会です

6/5

髄膜炎を疑ったら、腰椎穿刺の前に何を始めるか？

頭痛・発熱・項部硬直・羞明を訴える55歳男性。細菌性髄膜炎を前に、抗菌薬とデキサメタゾンほどの順で、どこまでカバーすべきか。救急の現場で“数十分の遅れ”が転帰を左右する、初動の判断力を鍛える症例です。

6/12

「マダニを外しただけ」の患者に、予防内服は必要か？

腫大した blacklegged deer tick を外して12時間。Rhode Island 在住、症状なし。ライム病曝露後予防は誰に、いつ、どの条件で行うのか。『念のため治療』に流されない、ガイドラインに基づく予防戦略を整理します。

6/19

治りかけた足底創が、なぜ再び開いたのか？

裸足で踏んだ釘創のあと、いったん閉じたはずの踵の創が再び開き、排液を伴って遷延。表面は静かでも、深部では何が起きているのか。軟部組織感染、異物、骨髄炎—“きれいな創”に隠れた診断を読み解く症例です。

6/26

妊娠初期に HIV が判明したら、ART はいつ始めるべきか？

妊娠9週、母体の状態は安定、CD4 数も保たれている。それでも治療開始を先延ばしにしてよいのか。母体の安全性、胎児への配慮、そして母子感染予防をどう両立するか。産科と感染症の接点を考える、実臨床に直結する一題です。

参加希望の方は事前に課題をお渡ししますのでご連絡ください

✉ kansen@ml.nagasaki-u.ac.jp

☎ 内線：7506



IDETC 長崎大学病院

感染症医療人育成センター